



指導主事だより

教育委員会

# なんだかうれしい

## 相談時間等

- 立科小学校/午前9時～午前11時30分  
電話0267-56-3131 (呼)
- 立科中学校/午後2時～午後5時  
電話0267-56-1076 (呼)
- 立科町児童館/  
午前11時50分～午後1時40分  
電話0267-56-0303 (直通)

(担当 指導主事 中島一彦)



## シロちゃんの声が聞こえる

清掃の時間のことです。

男の子と女の子が広い校庭の隅にポツンとしゃがみ込み、夢中になって手を動かしています。

静かに近づいてみました。二人は少し離れた場所で一生懸命に草取りをしているのです。

女の子の足元にも、男の子の足元にも、青い大きなザルが置いてありました。冷たい風が時折吹き付けています。ザルの中には摘み集められた緑の草がたくさん入っています。少しでも緑の残る草を探し続けながらの草取り。



「すごいなあ」と思いながら、声をかけてみました。  
「二人とも、一生懸命に掃除をしてくれて、ありがとうね」

「こんなに、掃除を立派にやってくれる1年生を見たことがないよ。えらい！」

そんな声掛けに

「シロちゃんの餌なんですよ」男の子が声を返してくれます。

「一生懸命とって、たくさんあげたいんです」と女の子。

寒中、小さな二人が黙々と掃除をしていると思っていたのは、学級で飼育している「シロちゃん（ひつじ）を思っの草取り」なのでした。今、目の前の子どもたちは小学校一年生。

学級の日々の暮らしの中に位置づいている「シロちゃんの餌あつめ」としての草取り。

ほめてもらうためにやるのでもなく、先生に見られているからやるのでもない。一緒に暮らしているシロちゃんのご飯を一生懸命に集めていたのです。

声にならないシロちゃんの思いを、いつも感じようとしながら、草取りを続ける子どもたち。

枯草を食べないシロちゃんを感じながら、緑の草なら食べるのかなあ、固いものより、やわらかい方がいいのかなあ・・・そんな思いをめぐらしながら、シロちゃんの側に自分を置こうとする子どもたち。子どもたちの自分本位からシロちゃんに向かっていく子どもたち。労を厭わない品格の豊かさが垣間見えるのです。



山盛りになったザルを抱え上げ、シロちゃんの居る校舎に向かって歩き始めた二人。その横を一緒に歩きました。

男の子が突然、「誰ですか?」「立科小出身ですか?」と訊ねてくれます。

「立科小出身じゃないけどね、立科小学校の子どもたちにあこがれて、立科小に来たんだよ」

中島の返答が終わると同時に足早になった男の子。

「〇〇ちゃん早く、シロちゃんがまってるよ」

と ふいに男の子。

「うん」とうなづく女の子。

二人はシロちゃんの待つ中庭の小屋にかけていきました。一年生の子どもたちはシロちゃんの声が聞こえるみたいです。